

屋久島世界遺産地域管理計画に基づく管理状況評価シート 2012～2020（素案）

管理計画上の項目 No.1-10	(1) 生態系と自然景観の保全 ウ. 自然景観の保全 (イ) ヤクスギの巨樹・巨木		
実施主体	環境省、◎林野庁		
<主な取組> ・No.1-3 参照 ※詳細は「管理計画に基づく事業実績」（毎年度の科学委員会資料）参照			
<評価> 管理の状況 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: 2em; margin: 0;">4</p> </div> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 10px;"> <p>4：高く有効</p> <p>3：有効</p> <p>2：やや懸念あり</p> <p>1：深刻な懸念あり</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="font-size: 2em; margin: 0;">3</p> </div> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 10px;"> <p>約10年の傾向</p> <p>5：著しく改善</p> <p>4：改善</p> <p>3：安定／変化なし</p> <p>2：悪化</p> <p>1：著しく悪化</p> <p>N：情報不足／判断不可</p> </div> </div>			
<成果> ・No.1-3 参照			
<課題・参考情報> ・No.1-3 参照			

表 1・10・1 屋久島の巨樹・著名木データ一覧
 【屋久島森林生態系保全センター_九州森林管理局】

No.	名称	樹高 胸高周囲	場所(標高:m)	直近の 樹勢診断	直近の樹勢 回復措置	時期予定	置かれて いる樹齢	備考
1	縄文杉	25.3m 16.4m	大株歩道沿い 99林班 (1,300)	H29年 (2017)	H29年 (2017)		2000年代 ～7200年	最大の屋久杉といわれ、調査対象の中で胸高周囲が最大
2	夫婦杉 (夫)	22.9m 10.9m	大株歩道沿い 99林班 (1,230)	H23年3月 (2011)			(夫)2000年	板でつながった合体木
	〃 (妻)	25.5m 5.8m					(妻)1500年	
3	大王杉	24.7m 11.1m	大株歩道沿い 99林班 (1,190)	H30年 (2018)	H29年 (2017)		3000年	かつては最大の屋久杉といわれた
4	ウィルソン杉	— 13.8m	大株歩道沿い 99林班 (1,030)	—			(2000年余)	巨大な切り株
5	鏡杉	23.7m 12.6m	大株歩道沿い 99林班 (1,000)	H21年 (2009)			2000年	平成22(2010)年9月に倒れる (樹高・周囲は立木時の数値)
6	仁王杉	22.8m 8.3m	森林軌道沿い 99林班 (860)	—		R2年 (2020)		平成12(2000)年11月に倒れる (樹高・周囲は立木時の数値)
7	三代杉	38.4m 4.4m	森林軌道沿い 100林班 (740)	H27年 (2015)	H28年 (2016)		500年	倒木更新、切り株更新を重ねた3代目

8	婁子杉	26.2m 5.7m	森林軌道沿い 89林班 (620)	H29年 (2017)				
9	川上杉	27.0m 8.9m	安藤林道沿い 81林班 (1,280)	H21年 (2009)	H31年 (2019)	R4年 (2022)	2000年	
10	紀元杉	19.5m 8.1m	安藤林道沿い 81林班 (1,230)	H21年 (2009)			3000年	車道沿いにある巨木、着生に特徴がある
11	双子杉 (左)	22.2m 1.7m	ヤクスギランド 80林班 (1,010)					同一株に更新した2本
	双子杉 (右)	22.7m 2.1m						
12	ヤクスギランド くぐり杉	25.7m 3.2m	ヤクスギランド 80林班 (1,010)	H21年 (2009)				合体木と思われる
13	仏陀杉	21.5m 8.0m	ヤクスギランド 80林班 (1,010)		H31年 (2019)	R4年 (2022)	1800年	ヤクスギランド50分コース
14	崖戸杉	19.3m 6.2m	ヤクスギランド 80林班 (1,040)				2600年	
15	蛇紋杉	23.6m 8.3m	ヤクスギランド 86林班 (1,080)				2000年	平成9(1997)年9月の台風で根こそぎ倒れる
16	小田杉	28.6m 8.2m	ヤクスギランド 86林班 (1,060)				2500年	
17	天柱杉	33.8m 8.2m	ヤクスギランド 86林班 (1,030)	H25年 (2013)		R2年5月 (2020)	1500年	
18	母杉 (母)	31.1m 9.0m	ヤクスギランド 86林班 (1,030)	H21年 (2009)	H31年 (2019)	R4年 (2022)	2600年	母杉はずでに枯死していると思われる
	" (子)	29.5m 6.3m						
19	三根杉	26.1m 9.3m	ヤクスギランド 86林班 (1,030)			R2年5月 (2020)		
20	ひげ長老	32.0m 9.5m	ヤクスギランド 86林班 (1,060)			R2年5月 (2020)		平成12(2000)年の世界自然遺産会議記念の公募で小学生が命名
21	大和杉	34.9m 10.2m	花之江河歩道沿い 80林班 (1,260)	H28年 (2016)			3000年 ~4000年	
22	万代杉	13.2m 8.6m	モッチョム登山道 (千尋ルート) 57林班 (800)	H27年 (2015)			3000年	
23	モッチョム太郎	24.5m 9.4m	モッチョム登山道 (千尋ルート) 57林班 (820)					
24	モッチョム花子	19.5m 6.3m	モッチョム登山道 (正面ルート) 56林班 (680)					
25	大滝杉	- 8.3m	旧栗生歩道沿い 24林班 (1,070)					江戸時代の切り株と横たわる巨大な幹
26	大龍杉	12.8m 7.1m	花山歩道沿い 17林班 (1,220)					

27	八本杉	25.4m 2.8m	大川林道沿い 9林班 (980)			R2年 (2020)		計測値は8本の中で樹高・周囲が最大のもの 人為的な倒木と思われる
28	弥生杉	26.1m 8.1m	白谷露水峡 215林班 (710)	H21年 (2009)	H30年 (2018)	R3年 (2021)	3000年	
29	二代大杉	32.0m 4.4m	白谷露水峡 215林班 (720)	H21年 (2009)	H30年 (2018)	R3年 (2021)		
30	三本足杉	25.0m 3.9m	白谷露水峡 215林班 (800)					倒木更新と思われる特徴的な形態
31	三本槍杉	24.2m 2.7m	白谷露水峡 214林班 (830)					計測値は3本の中で樹高・周囲が最大のもの 最大のものが本木で2本は倒木更新と思われる
32	奉行杉	24.0m 8.5m	白谷露水峡 215林班 (820)	H21年 (2009)				
33	展望台杉	18.0m 4.9m	白谷露水峡 214林班 (830)					
34	白谷露水峡 くぐり杉	22.0m 3.1m	白谷露水峡 214林班 (850)					倒木更新による根上りと思われる
35	七本杉	18.0m 8.3m	白谷露水峡 214林班 (850)	H21年 (2009)	H30年 (2018)	R3年 (2021)		異性がよく上即で分岐した代表的な屋久杉の姿
36	しゃらの大杉	14.3m 5.7m	白谷露水峡 213林班 (730)				1600年	平成7(1995)年9月の台風13号により地上7m で折れる
37	白谷大杉	— 6.3m	白谷露水峡 213林班 (730)					平成4(1992)年度の調査で折れて枯死している ことが確認された
38	びびんこ杉	20.0m 9.0m	白谷露水峡 214林班 (810)				350年	平成11(1999)年の公葬により命名される 鹿兒島弁で「肩車」を意味する
39	三本杉	23.4m 4.9m	楠川歩道沿い 212林班 (550)	H25年 (2013)	H26年 (2014)			計測値は3本の中で樹高・周囲が最大のもの 平成30(2018)年9月の台風で最大のスギ1本折 れる
40	太吉杉	17.6m 8.5m	旧高之浦歩道沿い 221林班 (1,280)					立入禁止区域

屋久島世界遺産地域管理計画に基づく管理状況評価シート 2012～2020（素案）

管理計画上の項目 No.1-11	(1) 生態系と自然景観の保全 エ. 外来種や病害虫等への対応										
実施主体	環境省、林野庁、鹿児島県、屋久島町										
<p><主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係行政機関が、2017年に外来種対策行政連絡会議を設置し、連携して各種対策を実施している。 ・タヌキについては、屋久島町が有害駆除を実施している。 ・アブラギリについては、林野庁が基礎調査や除伐を実施している(2010～)。 ・ナラ枯れについては、林野庁が被害調査を実施している(2004～)。 ・松枯れについては、No.1-6 参照。 <p>※詳細は「管理計画に基づく事業実績」(毎年度の科学委員会資料) 参照</p>											
<p><評価></p> <table border="1"> <tr> <td>管理の状況</td> <td>4 : 高く有効 3 : 有効 2 : やや懸念あり 1 : 深刻な懸念あり</td> <td>約10年の傾向</td> <td>5 : 著しく改善 4 : 改善 3 : 安定/変化なし 2 : 悪化 1 : 著しく悪化 N : 情報不足/判断不可</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">2</td> <td></td> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">3</td> <td></td> </tr> </table>				管理の状況	4 : 高く有効 3 : 有効 2 : やや懸念あり 1 : 深刻な懸念あり	約10年の傾向	5 : 著しく改善 4 : 改善 3 : 安定/変化なし 2 : 悪化 1 : 著しく悪化 N : 情報不足/判断不可	2		3	
管理の状況	4 : 高く有効 3 : 有効 2 : やや懸念あり 1 : 深刻な懸念あり	約10年の傾向	5 : 著しく改善 4 : 改善 3 : 安定/変化なし 2 : 悪化 1 : 著しく悪化 N : 情報不足/判断不可								
2		3									
<p><成果></p> <p>—</p>											
<p><課題・参考情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外来種であるタヌキについては、有害駆除を実施しているが、現時点では全島的に分布が拡大しており、現実的にタヌキを根絶するという選択肢は困難な状況である。遺産地域の生態系への負の影響の度合いは不明である。 ・屋久島東部において、国内外来種であるオキナワキノボリトカゲの侵入が確認されており、分布の拡大が懸念される。遺産地域の生態系への負の影響の度合いは不明である。 											



図 1 - 11 - 1 アブラギリの駆除について (屋久島外来種対策行政連絡会)

【2018 科学委②】



図 1 - 11 - 2 外来種アブラギリの駆除試験地

【洋上アルプス No.296_林野庁屋久島森林生態系保全センター】